



Version 3

# iDoperation ver3.1.0 リリースノート



Version 3.1.0

発行日 2021年1月29日

# 1 iDoperation サーバ

新機能/変更の内容を以下に記載します。

「影響する機能」の列は、どのライセンスの機能利用時に影響するかを記載しています。

## 1.1 新機能

No	内容	影響する機能
1	Microsoft Edge、Google Chrome、Safari でブラウザからオートログインができるようになりました。 本機能を使用する場合はブラウザの拡張機能のインストールが必要です。	全て
2	AWS Managed Microsoft AD が ID 管理のサポート対象となりました。	全て
3	AWS Simple AD が ID 管理のサポート対象となりました。	全て
4	Amazon Redshift が ID 管理のサポート対象となりました。	全て
5	Amazon RDS for SQLServer 2019 が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
6	Box がサポート対象となりました。 ※ターゲット同期、アクセスログ自動収集はできません。手動で ID 管理をすることでオートログインすることが可能になります。	全て
7	CentOS 8 が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
8	Red Hat Enterprise Linux 8 上の Oracle データベース 19c が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
9	Web Console の対応ブラウザに Safari 14 を追加しました。	全て
10	Amazon RDS for SQL Server(SQL Server2019)が、iDoperation サーバの動作環境のデータベースに追加されました。	全て
11	Amazon Aurora PostgreSQL が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
12	Amazon RDS for PostgreSQL が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
13	Amazon Aurora MySQL が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
14	Amazon RDS for MySQL が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
15	Windows Server 2019 上の PostgreSQL 12 が ID 管理、アクセスログ管理のサポート対象となりました。	全て
16	Web Console の対応ブラウザに Safari 14 を追加しました。	全て
17	vCenter Server Appliance ターゲットで、vSphere Web Client から HTML5 版コンソールへオートログインできるようになりました。	アクセス制御
18	PostgreSQL でログイン失敗ログの収集ができるようになりました。	アクセスログ管理
19	MySQL でログイン失敗ログの収集ができるようになりました。	アクセスログ管理
20	アクセスログアーカイブ機能が SQL Server 認証でデータベースに接続できるようになりました。 これにより、アクセスログアーカイブ機能は、Amazon RDS for SQL Server にデータベースを構築した場合など iDoperation サーバ上にデータベースが同居していない環境でも iDoperation サーバ上で利用できるようになります。	アクセスログ管理

## 1.2 変更

No	内容	影響する機能
1	<p>Web Console の以下の一覧画面で 10,000 件を超えるデータも表示できるようになり、件数が多い場合の表示時間を改善しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ログ収集状況一覧</li> <li>・ユーザー一覧</li> <li>・アカウント利用設定一覧</li> <li>・ターゲット一覧</li> <li>・アカウント一覧</li> <li>・アカウントグループメンバー一覧</li> <li>・スケジューラー一覧</li> </ul> <p>上記一覧画面の CSV ファイルダウンロードも同様に、10,000 件を超えるデータをダウンロードできるようになりました。</p>	全て
2	ターゲット種別を選択するリストの表示順をターゲット種別の名前で辞書順に表示されるように変更しました。	全て
3	ターゲット管理の管理者アカウント、接続アカウントに全角文字を入力できないようにしました。	全て
4	iDoperation を停止する場合に、非同期処理のプロセス停止に時間がかかることがあるため、iDoperationStop.bat の非同期処理の停止部分にタイムアウト時間(30 秒)を設けました。それにより、iDoperationStop.bat でタイムアウトした場合は、再実行する運用手順が変わります。	全て
5	アカウント一覧レポートの出力時間を改善しました。 ターゲット、アカウント利用設定の登録数が多いほど出力時間が改善します。	全て
6	iDoperation にバンドルしている PHP のバージョンを、7.4.7 から 7.4.12 に変更しました。	全て
7	iDoperation にバンドルしている JDK を、AdoptOpenJDK 11.0.7+10 から AdoptOpenJDK 11.0.9+11 に変更しました。	全て
8	内部ライブラリを最新化しました。	全て
9	Web Console の CSV ダウンロードで出力対象レコード数が多い場合などにタイムアウトしてしまう場合があるため、IIS のアクティビティタイムアウトの設定値を 30 秒から 90 秒に変更しました。	全て
10	Web Console のユーザーパスワードポリシーで「パスワード再利用禁止世代数」には現在のパスワードは含めないように変更しました。パスワード再利用禁止世代数によらず、パスワード変更時に現在のパスワードを新しいパスワードには設定できなくなります。	全て
11	<p>申請プリセットによる貸出アカウントの自動追加が非同期に処理されるようになりました。</p> <p>アカウント管理するターゲットで下記の操作の処理時間が改善されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカウント追加</li> <li>・パスワード(秘密鍵)変更 (未設定時)</li> </ul>	ワークフロー
12	<p>申請・承認時の通知メールの送信が非同期処理されるようになりました。</p> <p>メール通知を行う場合の申請・承認時の処理時間が改善されます。</p>	ワークフロー
13	<p>Windows にロック解除でアクセスした時のログも自動収集するようになり、下記のレポートでロック解除によるアクセスが出力できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特権 ID の利用点検レポート</li> <li>・アクセス履歴レポート</li> <li>・ログイン失敗履歴レポート</li> </ul> <p>※Windows Server 2003 / 2003 R2 を除く。</p>	アクセスログ管理

## 1.3 修正

No	内容	影響する機能
1	Web Console で CSV ダウンロードをする際、出力対象レコードが大量にあるとメモリ不足でダウンロードができない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
2	一括操作でターゲット同期が異常終了した際に、result ファイルにエラー内容が出力されない場合がある不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
3	Web Console の再認証がスキップされる可能性がある不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
4	週単位のレポート出力で実行タイミングや対象期間に日曜日を指定すると次回実行日時、出力対象期間が 1 週間ずれる不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
5	アカウント名に全角英字が含まれるとアカウント名が不一致となり、一括操作や申請プリセット貸出の処理が行われない可能性がある不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
6	ターゲット管理で、2101 件以上のアカウントが所属するアカウントグループを選択するとエラーになる不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
7	Azure AD で、アカウント追加・変更時、追加・変更内容に記号「=」が含まれている場合、正常な内容での追加・変更失敗する事象を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
8	特権利用画面のターゲットの一覧で拡張ターゲットのアイコンが表示されない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
9	下記の条件をすべて満たす場合、ID 管理操作時に管理権限アカウントのパスワードがコマンドとして実行されてしまう不具合を修正しました。 ・接続用アカウントの su コマンドがパスワード不要の設定になっている ・su コマンドの完了時にメッセージが出力される設定になっている [対象バージョン：3.0.0]	全て
10	一括操作のアカウント変更でプライマリグループのみを指定した場合に、サブグループが変更されず所属したままになる不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
11	ローカルグループに所属するドメインアカウントを管理する Windows ターゲットで、ドメインアカウントの詳細画面が表示できない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
12	冗長構成の SQL Server、Oracle ターゲットを登録する際、「アクセスログ収集」画面から先に遷移できない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
13	パスワード貸出、ワンタイム特権 ID を利用する場合に、貸出、返却時のアカウント利用設定の操作履歴が登録されない可能性がある不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
14	管理者によるアカウント利用設定で、「実パスワード貸出対象」が「対象としない」となっているアカウントをパスワード貸出できない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て

No	内容	影響する機能
15	アクセスログ管理が無効なライセンスを Web Console に適用している場合、システム設定の共通設定タブの設定が変更できない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	全て
16	最終承認前に否認、強制完了をした場合に申請書が削除できない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	ワークフロー
17	外部ワークフロー連携で申請情報を登録した場合の以下の不具合を修正しました。 ・パスワード貸出を利用する場合に、貸出、返却時にパスワードが変更されない ・利用期間終了後も申請書が削除できない [対象バージョン：3.0.0]	ワークフロー
18	報告が不要なワークフローで特権 ID 貸出申請をすると、最終承認時(承認なしの場合は申請時)に通知メールが送信されない不具合を修正しました。申請承認通知メールを送信します。 [対象バージョン：3.0.0]	ワークフロー
19	外部ワークフロー連携でのパスワード貸出でアカウント操作履歴が登録されない不具合を修正いたしました。 [対象バージョン：3.0.0]	ワークフロー
20	特権 ID 利用申請で同じアカウントのパスワード貸出を複数貸出している場合に、返却時にそのアカウントのパスワード変更が複数回行われる不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	ワークフロー
21	iDoperation Client から iDoperation ユーザのパスワードを変更した時に、下記の条件を満たしているとパスワード変更に失敗する不具合を修正しました。 ・ユーザ登録後、一度もパスワード変更を実施していないユーザであること ・ユーザパスワードポリシーのパスワード再利用禁止世代数の設定が 0 以外であること [対象バージョン：3.0.0]	アクセス制御
22	Web Console のログ収集状況画面でログ収集履歴初期化の操作をしても、初期化されない不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	アクセスログ管理
23	PostgreSQL にアクセス権限がないアカウントでアクセスしログイン失敗した場合に、特権 ID の利用点検レポート、および、アクセス履歴レポートにログイン失敗した時のアクセスが出力される不具合を修正しました。 [対象バージョン：3.0.0]	アクセスログ管理

## 2 iDoperation Client

新機能/変更の内容を以下に記載します。

「影響する機能」の列は、どのライセンスの機能利用時に影響するかを記載しています。

### 2.1 新機能

No	内容	影響する機能
1	iDoperation Client が macOS に対応しました。 対応 OS は macOS バージョン 10.15 (Catalina) です。  【補足】 下記のターゲット種別のみオートログインできます。 ・ Windows(リモートデスクトップ) ・ UNIX/Linux(SSH)	アクセス制御

### 2.2 変更

No	内容	影響する機能
1	iDoperation Client のインストール時に、接続情報(Console Server の IP アドレス/ホスト名)の入力が必須になりました。	アクセス制御

### 2.3 修正

No	内容	影響する機能
1	英語版 TeraTerm スクリプトでエラー発生時のダイアログが正常に表示されない事象を修正しました。 [対象バージョン : 3.0.0]	アクセス制御

### 3 アップデートについての注意点

- ver2 系と ver1 系の製品から ver3 系にアップデートすることはできません。
- ver2 系と ver1 系のライセンスファイルを ver3 系で使用することはできません。
- 「1.1 No.18、No.19」アップデートをすると、PostgreSQL と MySQL のターゲットでログイン失敗ログを収集するか選択できるようになります。登録済みのターゲットは、アップデート後「収集しない」の設定になります。  
アップデート後にログイン失敗ログを「収集する」に変更した場合に、ログイン失敗ログを収集するようになります。収集する場合、これまでのバージョンよりもログイン失敗ログ分の DB 容量が増加します。増加するデータ容量はログイン失敗のログ量により変化しますが、ログイン 10 回につき 1 回のログイン失敗を仮定すると、アクセスログのデータ容量が約 1.1 倍程度増加します。  
ログイン失敗の発生頻度が低い場合は、ほとんど容量は増えませんが、大量にログイン失敗しているターゲットがある場合は大きく容量が増える場合がありますので、DB の容量にご注意ください。

## 4 前提条件・注意事項・制約事項の変更点

前提条件・注意事項・制約事項の変更点を以下に記載します。

※1章、2章に記載されていない変更点を記載しています。

No	内容
1	<p>ターゲット共通の制約として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>ID 管理用、ログ収集用の接続アカウント、管理者アカウントなどは、アカウントに全角文字が含まれている場合は、使えません。</p> <p>全角文字が含まれていないアカウントを用意してください。</p> <p>---</p>
2	<p>PostgreSQL の制約として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>PostgreSQL のクライアントツールでは、ログインに失敗すると複数回ログインを試みる場合があります。その際は、1度のログインで複数回のアクセスがログイン失敗履歴レポートに出力されます。</p> <p>---</p>
3	<p>Web Console で Active Directory 認証を使用する時の注意点として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>Windows Server 系の OS で、Internet Explorer11 を使用している場合に、Active Directory 認証が、正常に動作しないことがあります。その場合はブラウザの設定変更が必要です。</p> <p>---</p> <p>※ブラウザで必要な設定変更の内容はマニュアルをご確認ください。</p>
4	<p>UNIX・Linux 系 OS ターゲットの制約として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>syslog の種類や設定によって、su の実行ログが直前に記録されたログと全く同一の内容だった場合に以下の形式で記録されることがあります。</p> <p>last message repeated int times</p> <p>その場合、iDoperation では su 実行ログが出力されていない状態として認識し、特権 ID の利用点検レポートの点検結果が実際の利用と異なった内容になります。</p> <p>---</p>
5	<p>UNIX・Linux 系 OS ターゲットの制約として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>ID 管理、ログ収集に利用する接続用アカウント/管理用アカウントで、ログインシェルのコマンドプロンプトの末尾の文字は以下のいずれかである必要があります。</p> <p>\$</p> <p>#</p> <p>%</p> <p>]</p> <p>&gt;</p> <p>---</p>

No	内容
6	<p>MySQL の制約として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>Web Console やアカウント一覧レポートは、収集したアクセスログを元にアカウントの最終ログイン日時を表示しますが、アカウントのホスト名にワイルドカード(「%」,「_」)が使用されている場合、該当のアカウントの最終ログイン日時は更新されません。</p> <p>最終ログイン日時が更新されないアカウント名の例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ username@%</li><li>・ username@localhost_</li><li>・ username@127.%0.1</li></ul> <p>---</p>
7	<p>ID 利用 PC の動作環境の注意点として以下の内容を追加しました。</p> <p>---</p> <p>動作環境に含まれるブラウザであっても、オートログインが正常に動作するブラウザ環境は、ターゲット製品のサポートするブラウザに依存します。</p> <p>---</p>

## 5 バージョン互換性

### 5.1 iDoperation Client とのバージョン互換性

iDoperation サーバの各バージョンで、利用可能な iDoperation Client のバージョンは以下の通りです。

iDoperation サーババージョン	利用可能な iDoperation Client バージョン
ver3.1.0	ver3.1.0 までのすべてのバージョン
ver3.0.0	ver3.0.0

### 5.2 iDoperation SC サーバとのバージョン互換性

iDoperation サーバの各バージョンで、連携可能な iDoperation SC サーバのバージョンは以下の通りです。

iDoperation サーババージョン	連携可能な iDoperation SC サーババージョン
ver3.0.0~ver3.1.0	ver2.1.0 以降のすべてのバージョン



iDoperation V3  
iDoperation ver3.1.0 リリースノート

NTTテクノクロス株式会社

---

※本資料は、2021年1月現在の内容となります。最新の情報については、販売代理店またはNTTテクノクロスまでお問合せください。

※本資料でご説明した内容は予告なく変更することがあります。

※iDoperationは、NTTテクノクロス株式会社の登録商標です。

※他の会社名や製品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

(C)2021 NTT TechnoCross Corporation

---